

## 40年越しの町民の悲願 町道細浦・柳沢線が開通

12月23日、織笠地区から山田インターまでをつなぐ町道細浦・柳沢線が開通しました。この町道の計画は1979年に策定されましたが、予算などが課題となり、中断。震災後、国の復興交付金事業により整備を再開し、今回の開通に至りました。細浦・柳沢線の開通により、津波浸水域を通ることなく町内の移動や病院・消防署、三陸沿岸道路へアクセスすることが可能となり、住民生活の利便性と安全性が向上します。式では、八幡大神楽保存会による演舞が行われ、開通を祝いました。



## 山田と大槌結ぶ命つなぐ道 三沿道山田大槌間が開通

1月12日、三陸沿岸道路釜石山田道路の山田南インターチェンジ(IC)から大槌ICまでの全長8㎞が開通しました。同日、山田南IC付近で行われた開通式には、関係者約250人が出席。山田町観光協会によるカキ汁のふるまいや大槌保育園の園児らによる和太鼓などで開通を祝いました。今回の開通により、一般道を利用するよりも6分短縮されます。物流強化や観光振興はもちろん、緊急輸送道路として期待される三陸沿岸道路。地域住民の命をつなぐ道が、また一步全線開通へ近づきました。

## 長寿の秘訣は好き嫌いが無いこと 荒川の佐々木さん百寿の祝い

12月24日、荒川の佐々木ヨヨさんが100歳を迎えられ、26日には入所する施設で100歳を祝う会が行われました。佐々木さんは石峠に五男四女の長女として生まれ、荒川に嫁いだ後は、旦那さんと農業に従事。8人の子どもと16人の孫、26人のひ孫に恵まれました。趣味は民謡踊りを見ること。また、小さいころから足が速かったことが自慢で、いまでもそのことについて話すと、優しく微笑む佐々木さん。ご家族は「食べるのが好きで、好き嫌いがありません」と、長寿の秘訣を話しました。



## ニッコリ笑顔で百寿喜ぶ 長崎の佐藤さん100歳に

12月17日、長崎の佐藤イチヨさんが100歳を迎えられました。同日、入所する施設で行われたお祝いの会では、家族や入所者、職員などが祝福。たくさんの花束や職員手作りのケーキがプレゼントされました。大沢に5人兄弟の長女として生まれ、旦那さんとノリの養殖で生計を立てていた佐藤さん。小物作りやゲートボールを趣味としていました。施設内での行事にも自ら積極的に参加する明るい性格の持ち主。会では、多くの人に祝福され、ニッコリ笑顔で百寿を喜びました。



# 町のあだい

今月の題字 小林 <sup>かいき</sup>海樹君 (轟木小4年)

## いごにするから帰ってえ～ 織笠地区でなごみ行われる

「わりいわらすはいねえがー！」——。1月15日、織笠地区の各所で、織笠地区教育振興協議会が中心となって恒例の「なごみ」が行われました。小正月の夜に「邪気を払い、福を招く」ため、鬼が子どものいる家を回る、この行事。ピューピューという草笛と、ドンドンと扉を叩く音は、鬼が来た合図です。大きな包丁と不気味な麻袋を手に持った鬼の突然の登場に、驚き、泣き叫ぶ子どもたち。「親の言うことはちゃんと聞きます！宿題もやります！許してください！」と、涙ながらに一生懸命約束していました。



## 新しい消防団旗お披露目 約50年ぶりに新調へ

1月11日、役場町長室で新しい消防団旗のお披露目および交付式が行われました。今まで使っていた消防団旗は汚れやほころびなどがみられるため、約50年ぶりに新調。新しくなった消防団旗について、内館<sup>あきお</sup>秋雄団長は「皆さまのおかげで新調することができ、とても感謝している。新しくなった消防団旗の下、団員全員が心をついにし、活動していきたい」と喜びを語りました。また、防火に向け「火災を起こさないよう火の元に注意をしっかりとしていただき、町民全員で防火に努めていきたい」と力強く語りました。

## 飯岡コミュニティセンター再建へ ファイダーとの覚書に調印

12月20日、役場特別応接室で、町と公益財団法人国際開発救済財団（ファイダー）（代表者飯島延浩理事長）による「飯岡コミュニティセンター建設工事業に関する覚書調印式」が行われました。調印式では、東日本大震災により被災した飯岡コミュニティセンターを町で建設し、ファイダーが資金面の支援をすることを約束。建設場所は、飯岡防災センター跡地で、木造の地上1階建ての建物に、多目的ホールや調理実習室などが入ることになります。震災後に失われた、地区住民待望の「憩いの場」。本年度中の完成を目指し、現在工事が進められています。



左から佐藤信逸町長、江川信彦常務理事